# 平成30年度水戸市下水道事業会計決算審査意見書

## 第１　審査の期間

令和元年６月５日から同年８月７日まで

## 第２　審査の対象

１　決算書類

(1)　平成30年度水戸市下水道事業決算報告書

(2)　財務諸表

平成30年度水戸市下水道事業損益計算書

平成30年度水戸市下水道事業剰余金計算書

平成30年度水戸市下水道事業剰余金処分計算書

平成30年度水戸市下水道事業貸借対照表

２　決算付属書類

(1)　平成30年度水戸市下水道事業報告書

(2)　平成30年度水戸市下水道事業キャッシュ・フロー計算書

(3)　収益費用明細書

(4)　固定資産明細書

(5)　企業債明細書

## 第３　審査の方法

審査に当たっては，決算報告書，財務諸表及び決算付属書類は関係法令に基づいて作成されているか，計数は正確であるか，また，予算の執行及び事業の経営管理は地方公営企業法第３条に規定する経営の基本原則に基づき，適正かつ効率的に行われているかについて，関係諸帳簿及び証書類と照合を行うとともに関係職員から説明を聴取し，定期監査及び例月出納検査の資料も活用して審査を行った。

## 第４　審査の結果

決算報告書，財務諸表及び決算付属書類は，いずれも関係法令に基づいて作成されており，計数は，関係諸帳簿及び証書類と符合し正確であることを認めた。また，予算の執行及び事業の経営管理は，良好に行われていると認めた。

## 第５　決算の概要

１　業務実績

当年度末の処理区域内人口は214,008人，水洗化人口は185,952人となり，前年度と比較して処理区域内人口は600人（0.3%），水洗化人口は1,169人（0.6%）それぞれ増加している。処理区域内人口に対する水洗化率は86.9%となり，前年度と比較して0.3ポイント上昇している。また，一日平均処理水量は77,779㎥，年間処理水量は28,389,322㎥となり，前年度と比較して一日平均処理水量は189㎥（0.2%），年間処理水量は68,817㎥（0.2%）それぞれ増加している。

２　経営成績

総収益は8,739,293,388円となり，前年度と比較して367,227,372円（4.0%）減少している。これは，下水道使用料の増などにより営業収益が84,579,991円（2.1%）増加したが，一般会計からの補助金の減などにより営業外収益が329,218,225円（6.5%）減少したことなどによるものである。

総費用は8,627,541,629円となり，前年度と比較して384,680,136円（4.3%）減少している。これは，資産減耗費の減などにより営業費用が205,322,617円（2.8%）減少したことや，支払利息の減などにより営業外費用が109,788,614 円（6.4%）減少したことなどによるものである。

この結果，当年度純利益は111,751,759円となり，前年度と比較して17,452,764円（18.5%）増加している。

３　財政状況

資産合計は161,454,371,423円となり，前年度と比較して2,110,275,867円（1.3%）減少している。これは，減価償却に伴う構築物の減などにより固定資産が1,702,400,477円（1.1%）減少したことや，現金預金の減などにより流動資産が407,875,390円（16.2%）減少したことによるものである。

負債合計は134,939,037,440円となり，前年度と比較して3,069,047,626円（2.2%）減少している。これは，企業債の減により固定負債が2,928,885,183円（3.8%）減少したことや，未払金の減などにより流動負債が482,423,919円（6.9%）減少したことなどによるものである。

また，固定負債及び流動負債に計上された企業債は，当年度の発行額が元金償還額を下回ったため，前年度と比較して2,891,205,067円（3.5%）減少し，79,526,215,341円となっている。

資本金と剰余金を合わせた資本合計は26,515,333,983円となり，前年度と比較して958,771,759円（3.8%）増加している。これは，繰入資本金の増などにより資本金が941,318,995円（3.9%）増加したことなどによるものである。

なお，短期的な支払い能力を示す流動比率は32.4%となり，前年度と比較して3.6ポイント低下している。これは，未払金の減などにより流動負債が482,423,919円（6.9%）減少したが，現金預金の減などにより流動資産が407,875,390円（16.2%）減少したことなどによるものである。

４　資金状況

業務活動によるキャッシュ・フローは3,215,863,771円のプラス，投資活動によるキャッシュ・フローは1,569,384,792円のマイナス，財務活動によるキャッシュ・フローは2,044,185,067円のマイナスとなっている。

この結果，資金減少額は397,706,088円となり，資金期末残高は1,654,320,397円となっている。

業務活動によるキャッシュ・フローはプラスであり，投資活動及び財務活動によるキャッシュ・フローはマイナスであることから，業務活動によって得た資金を活用して，投資活動や企業債の償還などの財務活動が行われていることがうかがえる。

## 第６　審査意見

平成28年度に策定した「水戸市下水道事業経営戦略」に基づき，当年度においても，企業債未償還残高及び一般会計からの繰入金の縮減を図りながら，計画的な施設の整備に加え，下水道への接続促進，施設の適切な維持管理等に取り組んだところである。今後も引き続き，この経営戦略に基づく事業を着実に推進するとともに，次の事項に留意しながら，健全な企業経営に努められたい。

### １　未収金の縮減について

下水道使用料及び下水道事業受益者負担金の未収金については，前年度と比較して約９百万円減少し，約４億７千万円となった。今後とも，徴収業務の進行管理を確実に行い，滞納の早期解消に努めるとともに，滞納者の実態に応じて積極的に滞納処分を実施するなど，公平性の確保の観点からも，引き続き未収金の縮減に努められたい。

### ２　管渠や施設の更新等について

管渠や施設の老朽化の割合が増大する中で，限られた財源の中で効率的に施設等の更新を進めていく必要がある。今後は，耐用年数だけでなく，重要度や危険度に応じて優先的に更新を行うべき施設等を見極め，事業費の平準化と機能確保の両立を図りながら，計画的な更新に努められたい。

なお，施設等の現況の把握には，固定資産台帳等による施設等の資産管理が前提となるが，構築物等の受贈財産について，台帳への登録が遅延しているものが見受けられたので，事業部門と管理部門の情報共有を進めるなど管理体制の強化を図りながら，適切な資産管理に努められたい。

### ３　一般会計からの繰入金について

一般会計からの繰入金総額は約51億円となり，前年度と比較して約１億円減少しているものの，そのうち，国の定める繰出基準に基づかない基準外繰入金は約12億円であり，前年度と比較して約２億円増加している。

一般会計からの基準外繰入金については，下水道事業の収支不足に対する財政支援として行われているが，公営企業は独立採算制を経営の基本原則としていることから，水戸市下水道事業経営戦略に基づき，安定した下水道サービスを提供していく上で必要最小限の支援となるよう，繰入額の算定基準を明確にされたい。

### ４　経営の効率化の推進について

人口減少などの社会情勢において，下水道使用料の大幅な増加は見込めないことから，下水道事業を取り巻く環境は厳しさを増していく状況にある。令和元年度からは地方公営企業法を全部適用し，水道事業と組織統合をしたところであり，これまで以上に経営の効率化に取り組むとともに，受益者負担に基づく財政基盤の強化を図り，中長期的な視点に立った企業経営に努められたい。